

PA 52 52 US

Unexamined Utility Model Publication

Publication No.: 63(1988)-32593

Publication Date: March 2, 1988

Title of the Invention

Flying Toy Umbrella

Application No.: 61(1986)-125694

Application Date: August 18, 1986

Inventor: Jinji Kashiwazaki

Applicant: Jinji Kashiwazaki

Abstract

A flying toy umbrella comprising an umbrella which is foldable and unfoldable and is provided with a plurality of ribs which are connected to the top of a support column and extend downward or outward, and a weight movable up and down along the support column so that the weight is moved upward in the support column under its inertia to pull the umbrella while closing it when the toy umbrella is catapulted upward and is moved downward in the support column to open the umbrella in the air and to balance the umbrella during fall. In order to overcome problems inherent to the conventional toy parachutes, an umbrella is used in place of the parachute, and a weight is provided to be movable up and down along the support column of the umbrella. In the drawings, reference numerals denotes as follows.

10 ... flying toy umbrella

11 ... support column

12 ... umbrella

13 ... rib

14 ... umbrella sheet

15 ... weight

20 ... catapult

Though the toy umbrella of the present invention may be thrown up by hand, it is generally catapulted by a catapult shown in Figures 2 and 3. The umbrella 12 is opened in the air and slowly falls down as shown in Figure 4.



⑩ 日本国特許庁 (J P)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63-32593

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)3月2日

A 63 H 33/20

6935-2C

審査請求 (有) (全2頁)

⑮ 考案の名称 飛傘玩具

⑯ 実 願 昭61-125694

⑰ 出 願 昭61(1986)8月18日

⑱ 考 案 者 柏 崎 仁 次 長野県諏訪郡原村11083-13

⑲ 出 願 人 柏 崎 仁 次 長野県諏訪郡原村11083-13

⑳ 代 理 人 弁理士 堀 口 勝 利

⑳ 実用新案登録請求の範囲

支柱と、この支柱上部に結合して先端が下方乃至外方へ伸びる傘骨を有する開閉自在の傘と、前記支柱に沿って上下動可能に設けられ、上方へ放出された際、慣性力で支柱上部に移動して傘を閉じつつ引上げ、上空において支柱下部へ移動し傘を開いて落下する際のバランスを保つ錘とからなる飛傘玩具。

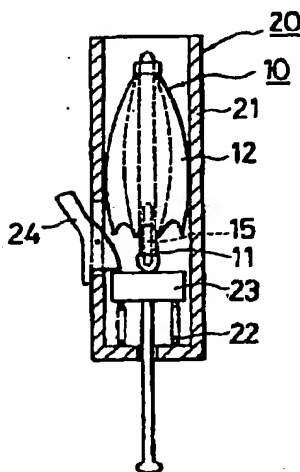
図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示す正断面図であ

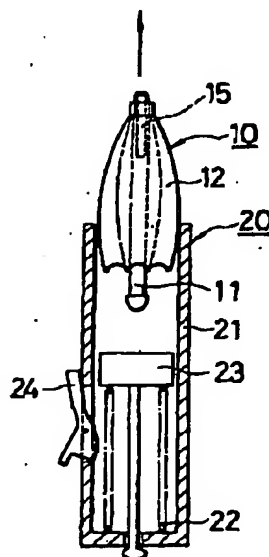
り、第2図は同例を発射機に入れた状態を示す正断面図、第3図は同例が発射機から発射される状態を示す正断面図、第4図は同例の降下中の斜視図である。

10……飛傘玩具、11……支柱、12……傘、13……傘骨、14……傘生地、15……錘、20……発射機。

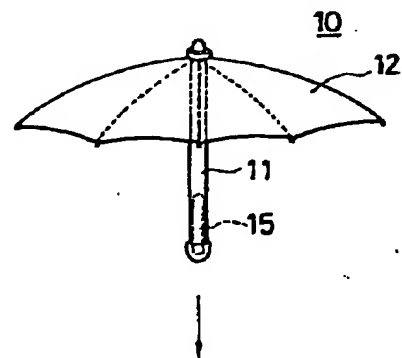
第2図



第3図

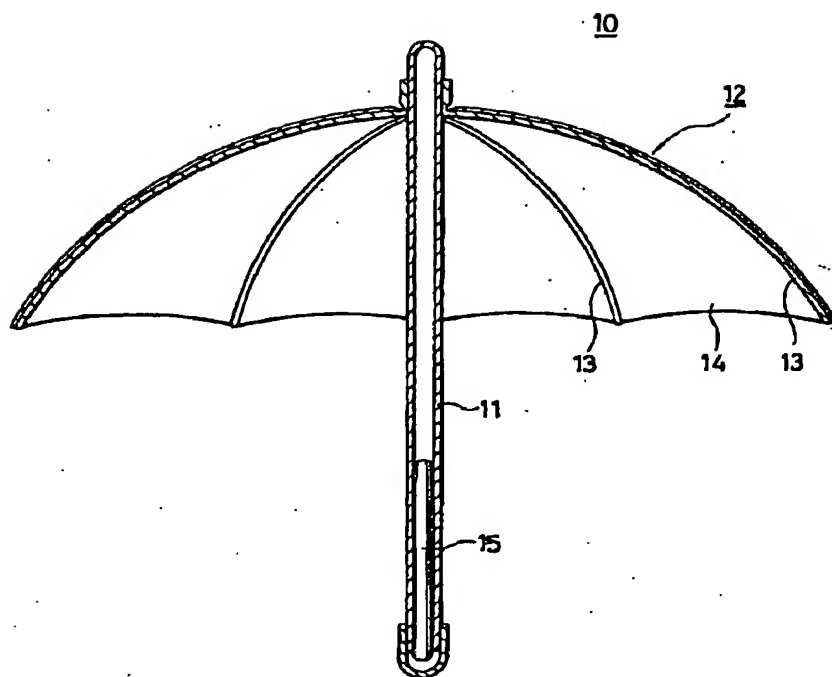


第4図



実開 昭 6 3 - 3 2 5 9 3 (2)

第 1 図



公開実用 昭和63- 32593

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 32593

⑪ Int.Cl. *

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)3月2日

A 63 H 33/20

6935-2C

審査請求 有 (全 頁)

⑭ 考案の名称 飛傘玩具

⑮ 実 願 昭61-125694

⑯ 出 願 昭61(1986)8月18日

⑰ 考 案 者 柏 崎 仁 次 長野県諏訪郡原村11083-13

⑱ 出 願 人 柏 崎 仁 次 長野県諏訪郡原村11083-13

⑲ 代 理 人 弁理士 堀口 勝利

(2)

実開昭63-32593

明 細 書

1. 考案の名称

飛傘玩具

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 支柱と、この支柱上部に結合して先端が下方乃至外方へ伸びる傘骨を有する開閉自在の傘と、前記支柱に沿って上下動可能に設けられ、上方へ放出された際、慣性力で支柱上部に移動して傘を閉じつつ引上げ、上空において支柱下部へ移動し傘を開いて落下する際のバランスを保つ錘とからなる飛傘玩具。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は、傘を閉じて上空へ放出し、開いてゆつくり落下させて遊ぶ飛傘玩具に関する。

従来の技術

従来より上空へ放出し、ゆつくり落下させて遊ぶ玩具としてパラシュートを用いたものが知られている。

考案が解決しようとする問題点

(1)

922

BEST AVAILABLE COPY

(3)

実開昭63-32593

公開実用 昭和63- 32593

BEST AVAILABLE COPY

このパラシュートを用いた玩具は、作動が不確実であり、パラシュートが上昇中に開いたり、下降中に開かなかつたりすることが多く、このため破損しやすく、また危険を生ずることがある。さらに糸を用いるためからまりやすく子供が取扱うのに適当でない。

本考案はこのような不都合を避けるため、パラシュートに代えて傘を用いた玩具を提供するものである。



問題点を解決するための手段



すなわち本考案は、支柱と、この支柱上部に結合して先端が下方乃至外方へ伸びる傘骨を有する開閉自在の傘と、前記支柱に沿って上下動可能に設けられ、上方へ放出された際、慣性力で支柱上部に移動して傘を閉じつつ引上げ、上空において支柱下部へ移動し傘を開いて落下する際のバランスを保つ錘とからなる飛傘玩具である。

実施例

以下本考案を図示する実施例について具体的

(4)

実開昭63-32593

BEST AVAILABLE COPY

に説明する。

第1図は飛傘玩具10の全体を示す。この図において、11は支柱であり、中空パイプ状になっている。12は傘であり、支柱11の上部に、折曲可能に結合し下方乃至外方へ伸びる軟質プラスチック製の傘骨13に紙、プラスチックシート、布等よりなる傘生地14を張設してなり、傘骨13を下方に向けて閉じ、かつ外方へ向けて開くことができる。なおこの傘12の構成は任意であり、通常の雨傘のように傘骨をヒンジピンを介して取付けたもの等を用いることもでき、支柱上部に取付けて開閉しうるものであればよい。15は錘であり、短い鉄棒、鉛棒等よりなり、支柱11内に収納され、支柱11に沿って上下動することができる。

この飛傘玩具10とともに使用される発射機の一例を第2図、第3図に示す。この発射機20において、21は筒状本体であり、内部にバネ22で押されている押板23を有している。24はレバーであり、バネ22を圧縮した状態で押板23に係止

(3)

924

(5)

実開昭63-32593

公開実用 昭和63-32593

BEST AVAILABLE COPY

し、かつ手動操作で開放することができる。



この飛傘玩具10は、発射機20を用いて、次のようにして遊ぶ。はじめに第2図に示すように飛傘玩具10の傘12を閉じて発射機20の筒状本体21内に押込み、押板23を押してバネ22を圧縮し、レバー24の下端を押して押板23に係止する。次に、第3図に示すように、筒状本体21の口端を上方に向け、レバー24の上端を押して押板23を開放し、バネ22の弾発力により飛傘玩具10を上方へ発射する。こうすると、錘15は、慣性力により支柱11内を移動して上端に位置し、傘12を空気抵抗により閉じた状態とし、傘12、支柱11を引張りながら、飛傘玩具10は上昇する。上昇が停止すると、第4図に示すように、錘15は支柱11内を移動して下端に位置し、傘12を開いてバランスを保ちながら、飛傘玩具10全体はゆっくり降下する。



上記では、この飛傘玩具を第2図、第3図の発射機20を用いて遊ぶこととしたが、他の構成の発射機、例えばバチンコ、弓を使用するもの

(6)

実開昭63-32593

BEST AVAILABLE COPY

等とともに用いてもよく、また発射機を用いず、手で直接投げ上げて遊ぶこともできることはいうまでもない。

考案の効果

上述のように、本考案の飛傘玩具は、傘を空中に放出して遊ぶものであるから、従来のパラシュートを用いるもののようになりがちなことがなく取扱いが容易であり、誰でも手軽に遊ぶことができる。また支柱に鍾を移動可能に設けているので、上昇時には必ず傘を閉じ支柱上端を上方に向けて進み、降下時には必ず傘を開いてゆつくり落下する極めて安定確実な動きが確保され、このためこわれにくくかつ安全である。さらに傘を用いることから、誰でも傘生地絵、図形を容易に描くことができ、多様なデザインとして楽しむこともできる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示す正断面図であり、第2図は同例を発射機に入れた状態を示す正断面図、第3図は同例が発射機から発射される状

(5)

926

(7)

実開昭63-32593

公開実用 昭和63- 32593

BEST AVAILABLE COPY

態を示す正断面図、第4図は同例の降下中の斜視図である。

10 飛傘玩具、 11 支柱、 12 傘、
13..... 傘骨、 14 傘生地、 15 錘、 20
..... 発射機。

実用新案登録出願人

柏 崎 仁 次

代 理 人

弁理士 堀 口 勝 利



(6)

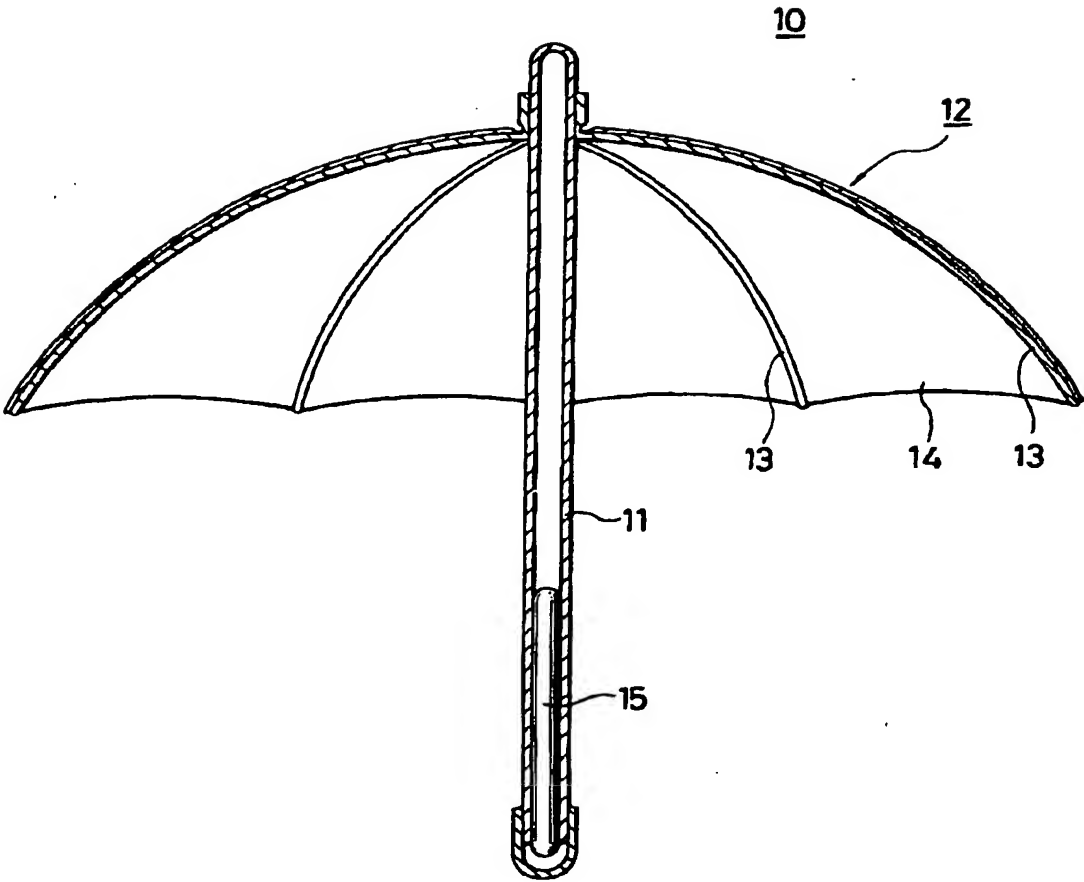
927

(8)

実開昭63-32593

BEST AVAILABLE COPY

第 1 図



928

全堀口 勝利 (印)

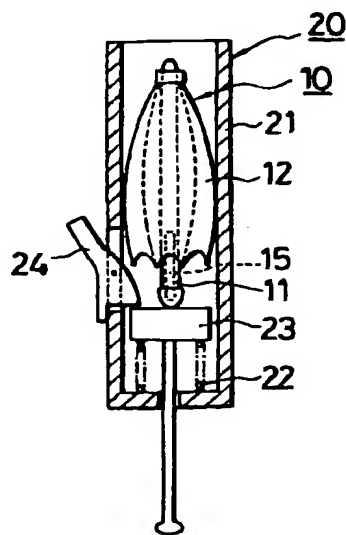
(9)

実開昭63-32593

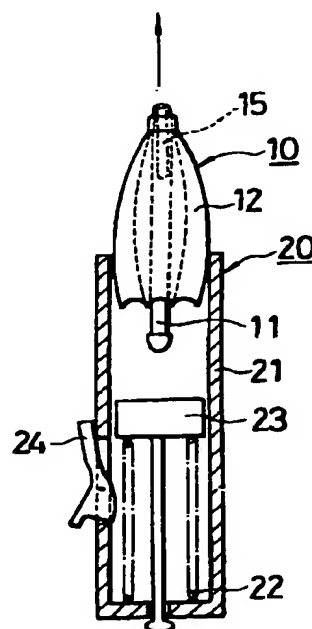
公開実用 昭和63-32593

BEST AVAILABLE COPY

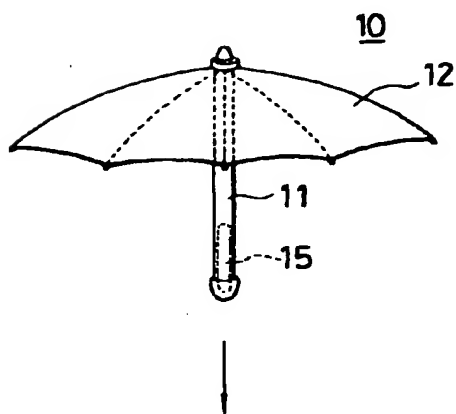
第 2 図



第 3 図



第 4 図



929